



# 園だより

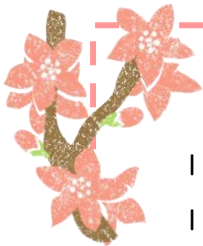
## 3月

令和5年3月号  
キッドワールドサード保育園  
園長 遠藤 靖子

令和4年度も最後の月となりました。

先日はお忙しい中「発表会ごっこ」に参加して下さいまして、ありがとうございました。園の中での子どもたちの様子を、少しでも感じ取っていただけたなら幸いです。このメンバーで過ごせるのもあとひと月。貴重な時間を大切にしながら、笑顔でたくさん触れ合っていきたいと思います。

保護者の皆様には、この一年大変お世話になりました。様々な感染症に気を付けながらも、無事行事を行えたこと、園を開けることが出来たのも皆様のご理解とご協力のお陰だと思っております。本当にありがとうございました。



### 行事予定

10日(金)	身体計測
16日(木)	健康診断
29日(水)	お別れ会
30日(木)	お弁当日

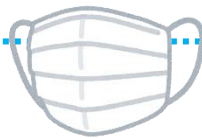
お弁当日は30日(木)です。

食べきれぬ量のお弁当と、食具を持たせてください。

お天気が良ければ、ピクニック気分でお外に出て食べたいと思います！



### マスクの着用について



テレビや新聞、ネットニュースなどで報道されている通り、マスクの着用に関しては3月13日より個人の判断に委ねることとなります。これまで、保護者の皆様には保育室に入室する際、マスク着用のご協力をいただきまして、ありがとうございました。今後は園から毎日の着用をお願いすることはなくなりますが、感染症の疑いがある場合や咳・鼻水・くしゃみが出ている場合などは、引き続きマスク着用を気にかけていただけると助かります。



### 延長保育について

3月に延長保育を利用した場合の代金請求についてお知らせいたします。3月30日(木)までの利用料を集計し請求いたしますので、31日(金)にお支払ください。なお、31日(金)に延長保育を利用した場合は、その代金を足した合計をお支払いいただくようになりますので、ご注意ください。



### 新年度用物品購入について

令和5年度に使用する物品(お便り帳、シール等)の購入申込書を後日配付いたします。封筒に代金を入れ、申込書を添えて職員室へお持ちください。

※ こども園、セカンドこども園へ進級するお子様の物品は、各園にて入園面接の際に説明がありますので、そちらで申し込みをしていただくようになります。



# 厳しすぎるしつけの中での問題

キッドワールド総合園長 牧野 桂一

前回は、イライラしたり大きな声で叱ったりしないですむ「しつけのコツ」をご紹介しました。その中では、大人の都合であれこれ子どもに要求を出していくのではなく、子どもに対してどこまでも一人の人間として尊く向き合うことの大切さを確認してきました。

今回は、そのようなしつけの配慮事項について少し突っ込んで考えてみたいと思います。

## それぞれの家庭が「我が家ならではの」というしつけの視点と価値観を持つ

子どものしつけは、家庭の大切な役割です。「良いこと」と「悪いこと」の判断や、守るべき決まり・ルール、また子どもへの教育方針というのは、それぞれの家庭によって、一定の決まったものがあるのではなく千差万別といってもいいと思います。その考え方には、保護者をはじめとした家族のこれまでの経験や育ってきた環境、価値観などが反映されますので、それぞれの家庭のしつけの具体的な内容についても、様々な考え方があるのがあたりまえです。しかし、このしつけの基本を回りの情報に頼るという傾向がとても強くなっていますが、大切なことは溢れかえる回りの情報に振り回されず、しっかりとそれぞれの家庭の現実足をつけて、家庭の中でぶれない方針を共有することです。周りの情報に振り回されてしつけの方法がコロコロ変わっては子どもも混乱してしまい、何が正しいのかの判断がつかなくなってしまいます。

周りの情報に振り回されないためには、それぞれが自分の家庭での子育ての基本的なあり方と教育の方針をもち家庭内でよく話し合い、それぞれの家庭ならではの共通したしつけの視点や考え方、そして価値観を持つようにすることがとても大切になります。

## 厳しすぎるしつけの中で子どもの姿

子どものしつけというのは、前回も紹介しましたようにややもすると神経質になってしまうことがあります。子どもに社会性を身につけさせ、園や学校、社会に出てから苦労しないですむようにと心配するあまり、つい厳しくなってしまうことがあるということです。時には、ついいき過ぎて「しつけのため」といいながら手が出てしまうことがあるというようなことも聞きます。「子どものため」とはいいいながら、いき過ぎた厳しすぎるしつけは、子どもの人格形成において、取り返しのつかない影響を与えることがありますので、そのことについては、是非知っておいてもらいたいと思います。

### ① 厳しすぎるしつけは子どもが萎縮し好奇心を失う

子どもは厳しすぎるしつけを受けていると、いつも叱られるのではないかとおどおどしてしまい萎縮するようになります。その結果、好奇心を持って新しいことにチャレンジする勇気を失ってしまいます。



- ② 厳しすぎるしつけは子どもが周りの大人の顔を覗き自己決定力が育たなくなります

自分のすることに対して厳しく注意ばかりされていると、子どもは叱られるところを避けるために周りの大人の顔をうかがうようになります。何をするにも周りの大人の反応を心配していたのでは、自分で自分のことを決める「自己決定力」が育ちません。その結果、自主的、自立的に自分の未来を切り拓いていくということが難しくなってしまう。



- ③ 厳しすぎるしつけは子どもに自己肯定感が育たず無気力になってしまう

厳しく叱られてばかりのしつけでは、子どもは自己肯定感を持つことができなくなってしまいます。自己肯定感を持つことは、意欲的に様々なことにチャレンジする力を生み出す大前提となります。それが持てないということは、チャレンジ精神をなくし、無気力になってしまうというリスクがあるのです。



- ④ 厳しすぎるしつけでは子どもは嘘をついたりごまかしたりするようになります

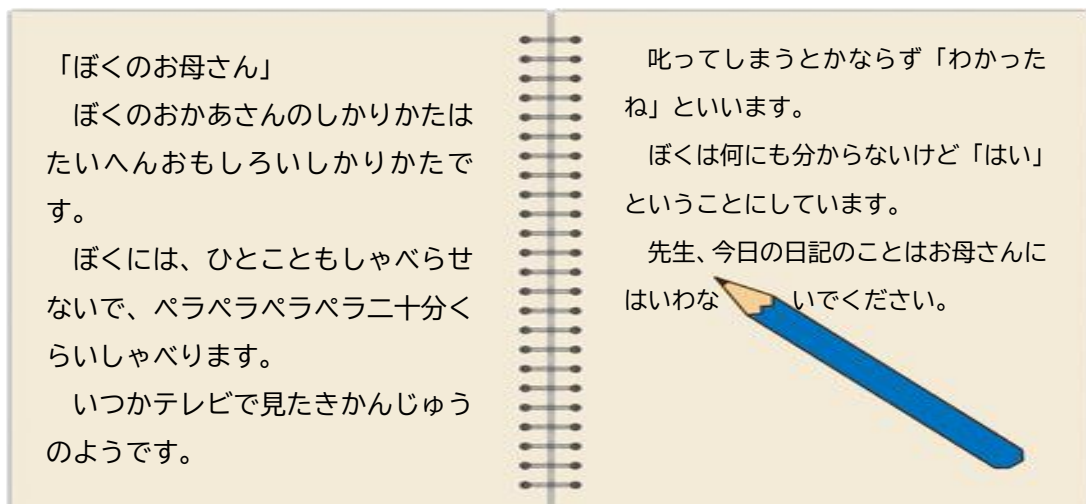
どの子どもも周りの大人に必要以上に厳しくされるといことは、基本的には嫌なものです。度を越した厳しいしつけが続くと、子どもは叱られたくないあまりに、口先だけで「ごめんなさい」といったり、嘘をついたり、ごまかしたりするようになってしまいます。

- ⑤ 厳しいだけではなく子どもを尊重したしつけを心がけることが大切です

周りの大人が感情にまかせて怒ったり、いつまでも叱り続けたりすると、子どもは「人格を否定された」と感じ、自尊心を失ってしまうものです。「このしつけ方は、子どもを尊重したものになっているだろうか」ということを客観的に自分でチェックすることも大切です。



最後にこのようなしつけの中で書いた小学一年生の日記を紹介します。



「ぼくのお母さん」

ぼくのおかあさんのしかりかたはたいへんおもしろいしかりかたです。

ぼくには、ひとこともしゃべらせないで、パラパラパラ二十分くらいしゃべります。

いつかテレビで見たきかんじゅうのようです。

叱ってしまうとかならず「わかったね」といいます。

ぼくは何にも分からないけど「はい」ということにしています。

先生、今日の日記のことはお母さんにはいわないでください。